

自己点検・評価 様式

大学名:岡山大学

研究科・専攻名:大学院医歯薬学総合研究科生体制御科学専攻, 病態制御科学専攻,
社会環境科学専攻

入学定員:(医歯薬学全体で)128名

○ 理念とミッション

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科は、国際社会において高く評価され、地域社会に広く活用される研究成果の創出を基礎として、創造性豊かな自立した研究者、研究・教育・医療におけるリーダー、並びに高度な専門知識と、豊かな人間性に基づく倫理観を兼ね備えた医療職業人を養成する。

→ これまでの大学院博士課程および大学院博士後期課程を改編し、新たに薬学系大学院博士課程を大学院医歯薬学総合研究科内に設置した。この課程においては、先導的薬剤師の養成ばかりでなく、基礎薬学研究者や厚生労働省およびPMDAをはじめとする公的行政機関に将来勤務することを想定し、教育研究を行っている。ミッションに関しては医歯薬学総合研究科で統一したものとなっており、この中では、臨床薬学のみならず医療薬学に関する教育研究を行い、将来のリーダーとなる人材の養成を手がけることを目標としている。(詳細な評価は3年半後となる)

○ アドミッションポリシー

大学院医歯薬学総合研究科では、その理念に基づいた人材養成目的を実現するために、以下の教育目標を掲げる。

- 1) 社会的ニーズを把握し、地域から国際社会まで貢献する医療・研究・教育分野を構築する
- 2) 医・歯・薬学の専門的知識を結集した学際的研究・教育を推進する
- 3) 世界をリードする先端的・独創的研究を推進し、研究成果を発信する
- 4) 高度で幅広い知識を教授し、科学の進歩に適応しうる問題解決能力を涵養する
- 5) 社会人に再教育の場を提供して、生涯医療教育を推進する

→学部教育において不足する専門的知識や研究技術を学び、それぞれの将来においてスペシャリストになれるような、また、スキルを磨くような教育研究を行う場を提供する。

→本学学部におけるアドミッションポリシーは、1. 薬剤師にふさわしい高い理想、使命感、コミュニケーション能力を持ち、優れた倫理観に支えられた研究心・探究心を持ち続け、高度な知識と最先端の技術を身につけた薬剤師として活躍したいと考えている人、2. 大学院(博士課程)進学

後、薬学関連分野の研究者および教育者を目指したいと考えている人、と定められている。したがって、上記大学院のポリシーは学部教育からの連続性を想起しているものである。

ホームページのリンク先

<http://www.pharm.okayama-u.ac.jp/special/02-7.html>

○ 受験資格

一般的な受験資格である6年制薬学部を卒業した者(卒業見込みを含む)及び旧薬学教育課程の修士課程を修了した者で薬剤師免許を有している者を除き、貴学の受験資格について該当するものに○を付すこと

(複数回答可)

- | |
|--|
| <p>① 6年制課程(医学部, 歯学部, 獣医学の学部)を卒業した者</p> <p>② 外国において学校教育における18年の課程(最終の課程は, 医学, 歯学, 薬学または獣医学)を修了した者</p> <p>③ 修士課程を修了した者(薬科学)</p> <p>④ 薬学以外の修士課程を修了した者</p> <p>⑤ 旧薬学教育課程の学部を卒業した者(学力認定※)</p> <p>⑥ その他(学力認定) ※ 大学院において, 個別の入学資格審査により, 6年制の大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で, 24歳に達したもの</p> |
|--|

→大学院医歯薬学総合研究科博士課程として学生を募集しているために、その入学審査規定は共通である。その規則の中で、これまでに薬学以外の修士課程修了者(理工農文学部出身)が博士課程(医または歯系)に入学した実績がある(薬学系博士課程においては該当者はいない)。本年度、薬学系に4に該当する学生の入学は無かったが、今後、入学することも十分に考えられる。その際には、将来は研究者あるいは行政機関で活躍する人材を想定しながら、教育していく。5および6に関しては、個別の入学資格審査により、6年制の大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、24歳に達したものと規定されている。これまでの大学院入試の実績から、年齢条件が満たされていれば、受験資格を与えており、最終的にはその成績によって判断している。

○ 入学者選抜の方法

4月入学に関しては年2回(8月および1月)、10月入学に関しては年1回(8月)の受験機会を設けている。

入学者の選抜は、筆記試験、口述試験及び出願書類等を総合して行っている。試験科目は以下の通りである。

筆記試験：英語、専門科目(志望教育研究分野)

口述試験：専門科目(志望教育研究分野)

→社会人学生の入学を考慮し、年に複数回の受験機会を設けている。さらには、基礎学力を試す試験ではなく、英語読解力を判断できるように、英語の試験には辞書の持ち込みを認めている(冊子型のみ可。電子辞書は不可。)。また、専門科目に関しては、将来の薬剤師の立場や専門性、あるいは薬剤師資格を有した研究者の価値観や、社会における薬学博士を有した研究者の位置付けなどを問う記述および口述試験を課している。

○ 入学者数(平成24年度)

(内訳:6年制学部卒業生5名, 薬学部以外の卒業生 0名)

○ カリキュラムポリシー

・「目的につながる専門性」を修得するために、専攻に関連した専門科目(主科目)として衛生代謝制御学・生物情報機能学・薬効解析学・臨床薬剤学・製剤設計評価学・医薬品臨床評価学・救急薬学・構造生物薬学を提供するとともに、専門科目(副科目)としてケミカルバイオロジー・合成医薬品開発学・薬用天然物化学・医薬品機能分析学・生体膜と薬物の相互作用・応用生物薬剤学・生体応答制御学を提供し、講義・演習を行う。

・「情報収集・活用力」を獲得するために、研究方法論基礎・研究方法論応用を共通コア科目として提供する。

・「社会をリードする行動力」および「社会での自己実現力」を涵養するために共通コア科目として、研究手法の修得と論文の作成を目的とした研究課題を提供する。

→薬学部出身以外の学生にも配慮し、講義に関しては医学部や歯学部で開講しているものも受講出来るように提供している。

ホームページのリンク先

<http://www.pharm.okayama-u.ac.jp/special/02-7.html>

○ カリキュラムの内容

本学大学院医歯薬学総合研究科がこれまで実績をあげてきた共通コア科目（研究方法論基礎・応用と課題研究）および専門科目により研究手法の修得と論文の作成を行うものである。さらに、学際的な内容に対応出来るように専門科目に「副科目」制を導入し、他の教育研究分野の指導を受ける体制を整えている。

共通コア科目

研究方法論基礎：5単位（2年次まで）

研究方法論応用：4単位（2年次まで）

課題研究：5単位（3年次まで）

専門科目

主科目 講義・演習（所属する教育研究分野）：4単位（2年次まで）

演習・実習（所属する教育研究分野）：8単位（2年次まで）

副科目1 講義・演習（他の教育研究分野）：2単位（1年次）

副科目2 講義・演習（他の教育研究分野）：2単位（2年次）

→カリキュラム内容は本学の理念とミッションに適合したものとなっており、医歯薬学で展開される講義／演習のすべてを履修することで達成出来るものとなっている。

→授業科目に関しては、博士課程（一部博士後期課程と重複）でのみ展開されているものであり、高度な到達度を要求するものとなっている。

→主な博士論文の研究テーマ（予定）は以下の通りである。

アシネトバクチンの合成とシデロフォア活性について

MRSAの多剤耐性機構に関する研究

傾向スコアを用いた強オピオイド薬の副作用発現因子の探索研究

分子標的治療薬のPK/PDに基づく最適投与計画に関する研究

小胞型グルタミン酸トランスポーターの塩素イオンによる制御

→シラバス、教育課程概要、履修モデルに関しては、添付の学生便覧を参照下さい。

- 博士論文の研究を推進するために医療提供施設との連携体制をどのようにするか(予定を含む)について以下に記載すること

本学では、平時より教育研究に関して岡山大学病院薬剤部との連携体制をとっている。さらに、本学(薬学系)教員が高度救命救急センタースタッフとして院内診療支援体制を敷いており、大学院博士課程と大学病院の連携体制のもと研究推進環境も整えている。加えて、岡山県薬剤師会会員が運営する複数の保険調剤薬局、岡山市民病院や岡山赤十字病院とも連携し、調査研究を行う予定である。社会人大学院の研究が円滑に進捗するために、当該学生の勤務する病院/薬局と本学が提携し、教育研究施設となるよう承諾を得る予定である。

- 学位審査体制・修了要件

学位審査体制

学位論文は自著であって、論文の内容が学術雑誌に印刷公表されたもの、又は学術雑誌に投稿中であって、掲載証明書のあるものに限る。

学位論文の形式は、次の項目のいずれかに該当するものとする。

- 一 単著論文
- 二 学術雑誌に公表したいいくつかの論文(共著論文を含む)の内容をまとめて、単著論文としたもの
- 三 医歯薬学総合研究科教授会薬学系会議(以下「薬学系会議」という。)で認めた国際的な学術雑誌に掲載された共著論文(但し原則として筆頭筆者でなければならない)又はこれに修正等を加えて、単著論文としたもの
但し、共著論文で学位を申請する場合、1論文1回限りとして、共著者の同意を得たものでなければならない。

修了要件

- ・博士課程に4年以上在学し、30単位以上を修得していること
- ・研究指導を受けていること
- ・学位論文の審査及び最終試験に合格していること

課程修了の基準は、上記の修了に係る要件を満たすものとする。ただし、在学期間に関しては、「岡山大学大学院医歯薬学総合研究科修業年限の特例(4年未満修了)」に関する申合せ事項により承認された者については、当該課程に3年以上在学すれば足りるものとする。

○ ディプロマポリシー

- ・ 目的に連結した専門性

医薬品の適正使用や開発研究を推進する実践的能力を発揮するための生命科学，疾病，医療に関する幅広い専門知識と技能を身につけている。

- ・ 情報収集・活用力

医療領域のみならず，自然や社会の幅広い領域の情報を自ら収集・分析し，正しく活用できる能力を有すると共に，効果的に情報発信できる。

- ・ 社会をリードする行動力

医療領域のみならず，社会生活に求められるコミュニケーション能力，グローバル化に対応した国際感覚や言語力を有し，人との共感的態度を身につけ，地球規模から地域社会に至るまで，時代と社会をリードする行動ができる。

- ・ 社会での自己実現力

生涯に亘って自己の成長を追求し，自立した個人として日々を享受すると共に，薬学や生命科学の発展に寄与するため，高い学習意欲を持ち研鑽を積むことができる。

ホームページのリンク先

<http://www.pharm.okayama-u.ac.jp/special/02-7.html>

#ここに示したアドミッションポリシー，カリキュラムポリシー，ならびにディプロマポリシーに関しては，本年度中にも改訂され新たに提示する予定となっている。したがって，来年度より，新規ポリシーに則って教育・研究に当たることを最後に付け加えておく。